

## 親密なパートナーからの暴力を受けた子どもたちの幸福を促進するための心理社会的介入の有効性に関する限られたエビデンス



心理社会的介入が親密なパートナーからの暴力(= IPV / intimate partner violence)にさらされた子どもたちの幸福をどの程度促進するのか、またどのような状況下で促進するのかは、ほとんど明らかではない。

### このレビューの目的は何か？

このキャンベルの系統的レビューでは、親密なパートナーからの暴力にさらされている子どもの幸福を促進するための心理社会的介入の効果を検討している。このレビューでは、8件の方法論的に厳密なランダム化比較試験からのエビデンスが要約されている。

子どもが親密なパートナーからの暴力(IPV)にさらされることは、公衆衛生および社会正義の重要な問題であり、深刻で長期的な影響を及ぼす可能性がある。心理社会的介入がIPVにさらされている子どもたちの幸福をどの程度促進するのか、また、どのような状況下で、どのような方法で、どのように設定するのかは不明である。

### このレビューの目的は何か？

小児期にIPVにさらされることは、健康と幸福に短期的および長期的に悪影響を及ぼし、それは世代を超えて持続する可能性がある。そのため、IPVにさらされた後の幸福を促進するための介入戦略の開発に関心が高まっている。過去20年以上にわたり、暴力にさらされた子どもたちを対象とした理論に基づいた心理社会的プログラムが開発され、さまざまな場(学校を基盤とした精神保健診療所、外来の心理療法の場など)で確立されてきた。本レビューでは、この文献の状況と研究と実践への示唆を総合的に示している。

具体的には、総合的な問題、外部化する苦痛、内部化する苦痛、対人/社会的問題、および認知機能の改善における心理社会的介入の有効性が評価されている。介入のモダリティ(例:個人、家族ベース)および介入の設定(例:在宅、外来診療所)による効果の変動も検討される。

### どのような研究が含まれているか？

本レビューには8件のランダム化比較試験(RCT)が含まれ、合計924人が参加している。研究の大部分は米国で実施され、オランダとインドでそれぞれ1件ずつ実施された。対象となる子供の年齢層は様々であったが、すべての研究が0~18歳の範囲内であった。

3つの研究では、IPVにさらされたことのある親や子どもの一般集団を対象としており、親や子どもの症状や機能に関する包括基準は明記されていない。4つの研究では、IPVに関連した心的外傷後ストレス障害(PTSD)の症状を持つ子どもやアルコール依存症の父親など、より明確な包括要件が設定されている。親が経験したIPVの性質や、子どもが目撃したり聞いたりしたIPVの性質についての研究は、多岐にわたっている。

